

「伝統的な 言語文化」に 親しむ

「枕草子」などの古典文学から、「三まいのおふだ」のような昔話まで、古来から伝わるさまざまな言語文化を、小学校で学び、親しむことが求められています。

「伝統的な言語文化」を指導する際、心に留めておくことや、子どもたちをひきつけるためにどのような授業が考えられるか、先生方のお話と、実践事例を交えながらご紹介します。

提言 伝統的な言語文化を学ぶ意味

東京女子体育大学理事・教授 田中洋一

戦後の日本文化は、政治や経済の分野と同様に、欧米の国々を模範として形成されてきました。そのことにより、戦後の新しい日本文化が創造されてきたことは事実ですが、反面、かつての日本人がもっていた、伝統や風習、情緒などの日本的なよさが消えつつあることが指摘されています。このため、我が国の伝統的な文化があらためて見直されるようになってきたのです。

このことは改正された教育基本法や学校教育法にも反映され、そこには、我が国の伝統と文化を尊重する児童・生徒を育成するという方針が示されました。この方針は、言語教科である国語科にも大きな影響を与えました。

今回の学習指導要領の基本的な考え方を示した中央教育審議会答申（平成二十年一月）は、国語科の内容について次のように示しています。

「国語科では、小学校の低・中学年から、古典などの暗唱により言葉の美しさやリズムを体感させた上で、我が国において長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・

漢文などの古典や物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品に触れ、理解を深めることが重要である。」

この答申を受け、新学習指導要領国語科には「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設され、小学校から古典を中心とする伝統的な言語文化に親しむ教育が位置付けられたのです。

かつて日本の子どもたちは、「かぐや姫」や「桃太郎」「因幡の白ウサギ」などの話を大人から聞いて育ちました。したがってこれらは、日本人ならだれもが知っている昔話でした。これらの昔話は子どもたちを楽しませてくれただけでなく、毎日の暮らし方や人との付き合い方など、たくさんの大切なことを教えてくれました。その結果、子どもたちには、誠実、正直、思いやりなどを重視する豊かな心が育ちました。最近、昔話を知らない子どもが増えています。が、それが日本人の新しい問題行動の一因になっているのではないかとこの声も聞かれます。

また、昔話や古典に出てくる人たちの多

くは、自然を愛し自然と調和して生きています。日本には四季折々の美しい自然があり、人々は自然から多くの恵みを得るとともに、自然を愛し、多くの生物と共存してきましたのです。このような生き方や価値観も、これからの日本人が大切に受け継いでいきたいものであると思います。

さらに、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などは、人々の生き方の道しるべとなってきました。これらに表れている古人のものの見方や考え方を知らずとは、人生をさらに豊かにしてくれることでしょう。

このように昔話や古典などの言語文化に小学生のうちから親しむことを通して、日本人が長い間大切にしてきた日本的なよさを継承していくことが望まれているのです。

たなか・よういち

東京都生まれ、東京都の公立中学校教諭、教育委員会指導室長等を経て現職、中央教育審議会国語専門委員、学習指導要領中学校国語作成協力者などを歴任する。著書に「小学校古典指導の基礎・基本」「観念別学習状況の評価規準と判定基準」「図書文化社」などがある。